

# じいちゃんの たんじょう日パーティー

よしえ

きょう、じいちゃんの たんじょう日でした。

ケーキも たべました。

じいちゃんは、目も 見えないし、耳も きこえません。

なんにも 見えないから 手のひらに かきます。

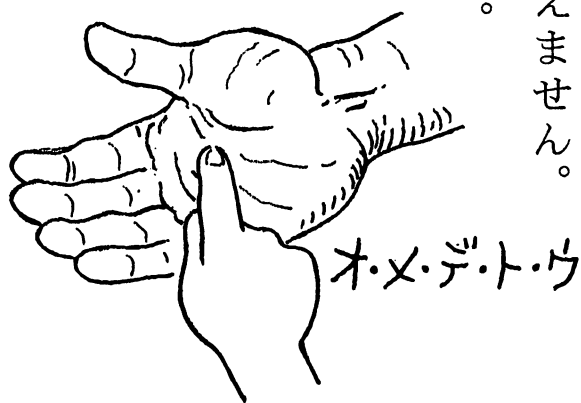
でも、カタカナで かかないと ダメなので、

わたしは、手のひらに こう かきました。

オメデトウって かきました。

じいちゃんは、よろこんで いました。

わたしは、きょう じいちゃんの



たんじょう日だと しらなかつたので  
プレゼント よういして ありませんでした。  
おくれて プレゼント あげます。

☆みんなの おじいちゃん おばあちゃんの たんじょう日を しって いま  
すか。

☆みんなも おじいちゃん おばあちゃんの たんじょうかいを したことが  
ありますか。

☆みんなの おじいちゃん おばあちゃんは むかし どんな くらしを し  
ていたのでしょうか。きいて みましよう。

# じいちゃんのとんじょう日パーティー (小学校低学年向け)

## A 教材設定の意図

子どもたちは、日頃、自分の祖父母に対してどのような思いを持つて接しているのだろうか。親や兄弟姉妹に比べれば一緒に暮らしていても、祖父母とは遠い関係の場合が多いのではないだろうか。あるいは何でも言うことを聞いてくれる優しい祖父母でも、その思いや願いにふれることは少ないだろう。

祖父母の生い立ち、子どもの頃の家事や遊び、そして仕事に就き一生懸命汗を流し労働した姿、さらには結婚から育児(子どもにとつての親)など生活を通しての様々な喜びや苦勞について子どもたちが知ること、子どもたちはこれまでもついていた優しい人とか単に年若い人といった表面的なとらえ方から抜け出し、祖父母の人としての歩みを感じ取ることだろう。そして祖父母との関係が近いものとなっていくのである。さらに、祖父母を通して家族一人ひとりをもみつめ直し、家族のつながりを確かなものにしていくことになるだろう。

本教材のよしえちゃんとおじいちゃんの暖かい心の通いあいをつかむことを通して、自分の祖父母の暮らしや思い・願いと出会うきっかけを作ることができたらと考える。そして、子どもたちが自分の祖父母との関係をより深いものにすることを願ってこの教材を設定した。

## B 教材の解説

子どもたちは自分の誕生日パーティーをして家族や友だちに祝ってもらっていることは多いが、祖父母の誕生日パーティーをしたことがある子は少ないだろう。パーティーどころか、おじいちゃんおばあちゃんの誕生日を知らない子どもも多いのではないだろうか。

よしえちゃんの家族は、おじいちゃんの誕生日に、おそらく家族みんなでごちそうを食べただろう。お祝いのケーキには何本のろうそくが立っていたのだろうか。そのろうそくの火を吹き消すおじいちゃんの顔。ケーキを食べるおじいちゃんやよしえちゃんたち。おじいちゃんは「目も見えないし、耳もきこえない」ので、お祝いの言葉を手のひらに書いて伝える。それも、「カタカナでかかないとダメなので」よしえちゃんは「オメデトウ」と書いた。きつと、家族一人ひとりが順々に「オメデトウ」を書いたことだろう。家族の誰かがおじいちゃんにプレゼントを渡していたのだろうか。今日、おじいちゃんの誕生日だと知らなくてプレゼントを用意してないよしえちゃんは、「おくれてプレゼントをあげます」と思っている。そんなよしえちゃんのことを子どもたちは優しいなあと感じるだろうし、よしえちゃんの家族つて暖かいと思うだろう。そして、おじいちゃん

んは家族にこんなに祝ってもらって、うれしいだろうな、と感  
じとることだろう。

子どもたちの多くは、よしえちゃんのおじいちゃんか「かわ  
いそう」「目も見えないし、耳も聞こえないってたいへんや」と  
いう感想を持つかもしれない。担任の先生は、家庭訪問の時  
によしえちゃんのおじいちゃんを見かけ、その時母親から「お  
じいちゃん、目が見えないんです。耳も聞こえないんです」  
「昔、船に乗っていて失明したんです」ということを聞いてい  
る。しかしここでは、よしえちゃんと家族はおじいちゃんと手  
のひらにカタカナで文字を書いてちゃんとお話ができるんだね  
いいね、ととらえることができよう。  
そして、自分のおじいちゃんやおばあちゃん、あるいは家族  
のことをみつめ綴ってみるきっかけとしたい。

### C 指導上の留意点

- ① 祖父母と一緒に住んでいる児童、離れて住んでいる児童、  
すでに亡くなってしまっている児童など様々な場合が予想さ  
れる。実態に応じて、家族のことを書かせるなど配慮したい。
- ② さらに発展させて、祖父母から昔のこと(遊び・暮らし・  
仕事など)や今の気持ちなどの聞き取りをして綴らせたい。

### D 参考

一九九三年度人権週間取り組み報告

酒井裕子(七尾市立有磯小学校:当時)

本教材を使った授業から

◆子どもたちからは、「目が見えないだけでもたいへんな  
のに耳も聞こえないなんてとてもかわいそうなおじいちゃ  
んだとおもいました。でもみんなやさしくてしあわせなん  
だろうなあとおもいます」「おじいちゃん、おばあちゃん  
は大すきだ。いつもいろいろおせわしてくれる。自分はお  
めでどうといつももらっているけど、わすれていわないこ  
ともあった。いってもらったらうれしいからこれからはい  
うよ」という感想が出るように、せつかく同居しているお  
じいちゃんおばあちゃんから多くのことを学んで欲しいと  
思うと同時に、家族の一員としていたわりの心をさらに大  
きく広げていけたら素敵だと思った。(羽昨)

◆この教材で授業をしていると子どもたちがハツとしたよ  
うな表情になった。「おじいちゃん、もう年とったのに遠  
いところへおしごとごころうさま。わたしはおじいちゃん  
のたん生日一かいもおいおいしたことないのにわたしのた  
ん生日にはケーキをかってくれたりプレゼントをかってく  
れたりしてありがとう。らい年からわたしもプレゼントあ  
げるね」の感想のように、祖父母へのあたたかい思いを呼  
び起こされたような感じだった。(羽昨)

## E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>①自分のおじいちゃんやおばあちゃんの誕生日を知っていますか。また、おじいちゃんやおばあちゃんの誕生会をしたことがありますか。</p> <p>二 展開</p> <p>②「じいちゃんのたんじょう日パーティー」を読みましよう。</p> <p>③よしえちゃんの家族はおじいちゃんの誕生日にどんなことをしましたか。</p> <p>④誕生日におじいちゃんはどうな気持ちでしたか。</p> <p>⑤よしえちゃんはおじいちゃんのことをどう思っていますか。</p>	<p>①誕生日にどんなことをしたか自由に話し合わせたい。経験のない子には、どういうことをしたいか想像させたい。</p> <p>②繰り返し指名読みをする。</p> <p>③ケーキを食べたことなど具体的なことをあげさせながら、手のひらに「オメデトウ」と書いた時のよしえちゃんの気持ちをおさえてい。</p> <p>④喜んだおじいちゃんの気持ちをおさえたい。</p> <p>⑤おじいちゃんの障害に「かわいそう」など同情を寄せる発言も予想される。その際には、おじいちゃんの障害そのものについての話に</p>

### 三 まとめ

⑥ 自分のおじいちゃんやおばあちゃんのことを聞いてきましょう。

は深入りせず、失明した経緯を説明し、これまでのおじいちゃんの仕事やたくましく生きてきたことについて話を進めていく。そしてよしえちゃんは指文字でおじいちゃんと気持ちを伝え合っていること、家族で誕生日パーティーを開く暖かさ、遅れてもプレゼントを贈ろうと思っているよしえちゃんの優しさを感じ取らせた。

⑥ 一緒に生活している児童、離れて暮らしている児童、おじいちゃんおばあちゃんが亡くなってしまった児童など様々な場合が予想されるが、それぞれの場合を大切にしながら聞き取らせた。また、実態に応じて家族のことを聞き取らせてもよい。そして聞き取りの内容については、「どこで生まれたの」「子どものときどんなあそびをしていたの」「どんなおしごとをしたの」など具体的な生活のイメージが思い浮かぶように聞き取らせた。